

経営理念の浸透が職場活性化に与える影響に関する研究

M142748 上河内 恵 子

1. 研究の背景と目的

近年、我が国の社会は、グローバル化、情報化、少子化、高齢化など、社会構造の大きな変革期を迎えており、国民の人格形成と国家・社会の形成者の育成を担う学校教育の重要性は高まってきている。社会の価値観の多様化や地域の家庭の教育力の低下など、学校を取り巻く環境の変化が学校教育に対する過度な期待や学校教育が抱える課題を一層の複雑化・多様化が進んできている（文部科学省，2007）。このような背景の中で、学校の組織体制と指導体制の見直しが示され、急激な社会の変化に適応するために、学校組織マネジメントが導入された。学校組織マネジメントには、学校経営が含まれている。多くの企業が経営理念を掲げているのと同様に、学校経営にも経営理念が必要とされている。高（2010）は、組織に対する情緒的コミットメントが（組織としての一体感）が経営理念の浸透に重要な役割と、組織成員のパフォーマンスにプラスの影響を与えると指摘した。このことから、経営理念の浸透が教員の活性化につながり、それが教育の成果として現れるのではないだろうかと考え、経営理念が浸透することが組織コミットメントを媒介して教員による生徒への授業改善等に対してどのような効果を与えるのかについて明らかにすることを目的とした。

2. 先行研究の検討と仮説の設定

経営理念の捉え方は千差万別で、定まった定義はなされていない。経営理念に対応する表現は、企業理念、基本理念、社是、信条、経営方針、行動規範等さまざまである。経営理念には、上位概念と下位概念の階層性があること、経営理念の浸透は、「経営理念の共感」「経営理念の理解」「経営理念の行動への反映」の3次元構造であること、経営理念の浸透度の内面化と定着化は企業への一体感や組織に対するコミットメントを高めること等、が指摘されている。また、浸透度の変数として組織コミットメントを用いての研究の蓄積がされつつある。しかし、経営理念の浸透に関する質問紙を用いた実証研究は少ないため、本研究では、高尾・王（2011）の理念浸透に関する測定尺度を用いて調査により検証した。

3. 分析モデルの設定

独立変数として、経営理念の理解、経営理念の共感、経営理念の行動への反映を用いた。媒介変数として、組織コミットメントの下位概念の情緒的コミットメントを用いた。従属変数として、教員が生徒への教

育活動の改善に向けて努力することを表す、向上への努力を用いた。以上のような尺度を設定した上で、分析モデルを構築した。

4. 調査の対象と分析方法

調査は、公立高等学校4校の教員を対象とし、質問紙調査票で回答を求めた。146名からの回収（回収率55.9%）だった。分析方法は、経営理念の共感・経営理念の理解・経営理念の行動への反映と向上への努力との関係における組織コミットメントの媒介効果を階層的重回帰分析により検証した。

5. 分析結果と考察

分析の結果、経営理念を理解している教員は、向上への努力をしていることが明らかになった。しかし、経営理念の共感・経営理念の行動への反映と向上への努力との関係は、経営理念の共感や経営理念の行動への反映の認知が高まっても、組織コミットメントが高まらなければ、教員の向上への努力には影響しないことが明らかになった。これは、教員の組織への愛着や組織との一体感など、組織に対する肯定的な感情を高めるためのマネジメントが必要であることを示唆していると言える。また、経営理念浸透の内面化と定着化は、組織コミットメントを高め、組織の活性化に影響するとされているが、浸透方法等にもマネジメントの必要性があることが示唆された。

6. 今後の課題

経営理念の浸透を、教員の個人的視点から調査したが、校長・教頭の管理職の視点からの調査も必要であろう。また、経営理念の浸透を促進するためには、学校の文化や組織風土の影響について研究することが必要であろう。